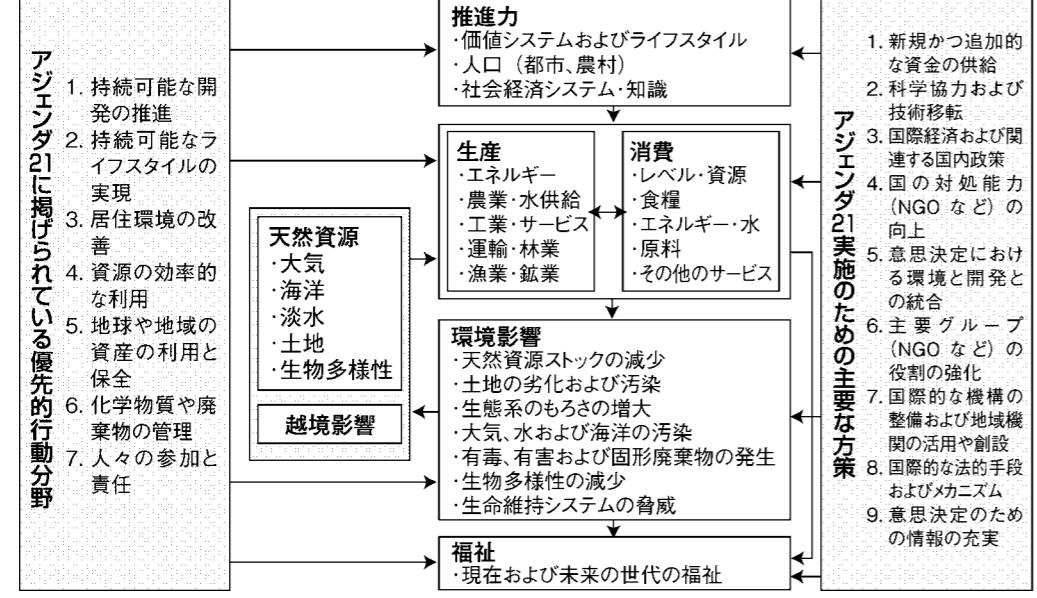


## 地球環境問題に関する主な出来事

1972	国連人間環境会議	人間環境宣言、環境国際行動計画
1972	ローマクラブ「成長の限界」	
1985	ウーン条約	オゾン層の保護
1987	エントリオール議定書	フロンなどオゾン層破壊物質の規制
1987	環境と開発に関する世界委員会(WCED)	最終報告書「Our Common Future (邦題: 地球の未来を守るために)」発行
1988	気候変動に関する政府間パネル(IPCC)	1990年に第1次評価報告書
1992	国連環境開発会議(地球サミット)	環境と開発に関するリオ宣言、アジェンダ21、気候変動枠組み条約など
1993	生物多様性条約発効	
1994	気候変動枠組み条約発効	
1997	気候変動枠組み条約第3回締約国会議	京都議定書採択
2002	持続可能な開発に関する世界首脳会議	持続可能な開発に関するヨハネスブルグ宣言、実施計画
2005	京都議定書発効	
2007	IPCC第27回総会	第4次評価報告書
2010	生物多様性条約第10回締約国会議	名古屋議定書、愛知目標

持続可能な開発会議(リオ+20)

## アジェンダ21の構成と範囲



「92年版図で見る環境白書」を基に作成

## リオ+20 成果文書への日本政府の主なインプット

I. 持続可能な開発のためのゴール設定に向けて	
グリーン経済	持続可能な開発実現のための重要なツール 全てのステークホルダーが参加し能力に応じた役割を担う。 特に新興国・民間セクターの役割に焦点を当てる グリーン・イノベーションなどの手法や経験の共有
新しい国際開発戦略と目標	人間の安全保障 GDP以外の豊かさの基準として「幸福度」提案
II. 持続可能な開発実現に向けた九つの提案	
(1) 防災	ポスト「兵庫行動枠組」の策定と開発政策への統合
(2) エネルギー	大胆なエネルギー転換に向けて
(3) 食料安全保障	持続可能な農業を通じた食料安全保障の実現
(4) 水	持続可能な水資源管理
(5) 環境未来都市	誰もが暮らしたい街
(6) 持続可能な開発のための教育	「持続可能な市民」育成イニシアチブ
(7) 地球観測システム(GEOSS)	「地球観測ネットワーク」の強化
(8) 技術革新とグリーン・イノベーション	快適な次世代環境の実現
(9) 生物多様性	自然と共生する世界に向けた愛知目標の実現

指標仕組みを重視して  
リオ+20を単なるお祭り  
に終わらせないことにし  
る。リオ+20は単なるお祭り  
ではなく、持続可能な開発への転換  
をモニターしていくことを目  
標とするべきだ。

## 転換点なるか「リオ+20」

## かけがえのない地球

環境問題に関する最初の大規模な国連会議は72年に開催され、同年にローマクラブが、地球が無限であるという前提での経済発展は成り立たないと考へて示された。「成長の限界」とともに、その後の地球環境問題に関する議論の先駆けとなつた。

80年代に入ると、科学者から産業革命以降の工業化の過程で、石炭や石油を大量に消費したことによる大気中の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)濃度の上昇などが気候変動、地球温暖化を招くと指摘された。87年には国連に設けられた環境と開発に関する世界委員会(WCED)がその後の地球環境問題に対する「持続可能な開発」がキーワードだといつてある。地球サミットでは時間的な広がりを持つ問題だといつてある。地

球サミットでは、「人間環境会議」である。急速な工業化と都市化による公害・健康被害、環境破壊が中心テーマだった。会議のキーワードは「かけがえのない地球」。同年にローマクラブが、地球が無限であるという前提での経済発

展は成り立たないと考へて示された。88年には人為起源による気候変化影響、適応および緩和方策に関し、科学的な見地から包括的

な評価を行う目的で、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が設立された。IPCCは90年から20年後(92年に地球サミットが開かれた)の第1次から現在までに

サミットが開かれた。

92年6月ブラジル・リオデジャネイロでの地球サミット(92年版図)で見る環境白書

## 世界情勢の変化にどう対応

## 持続可能な開発

となつた。

WCE

最終報告書は

増加が可能だと予測されている。

50年には91億人を超えること

どの地球環境問題への対

策を話し合う国際政治の場は、先進国と途上国が対立をはじめとする国益

リオ+20

策